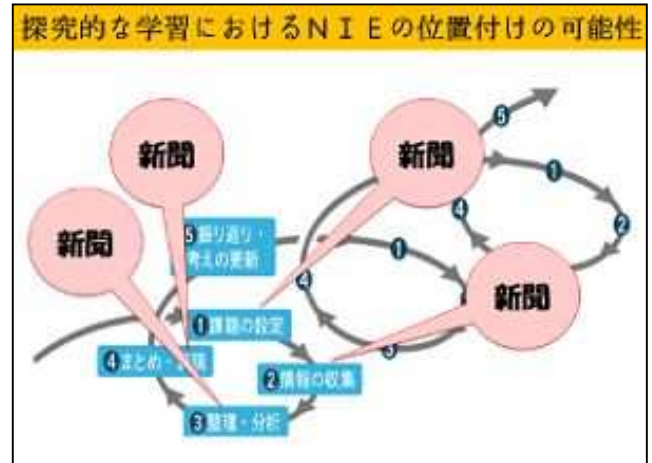
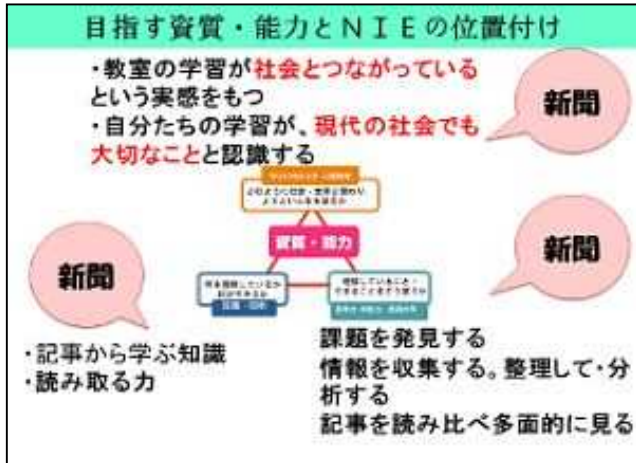


令和5年度 新潟市新聞活用教育（NIE）推進事業 実践報告集

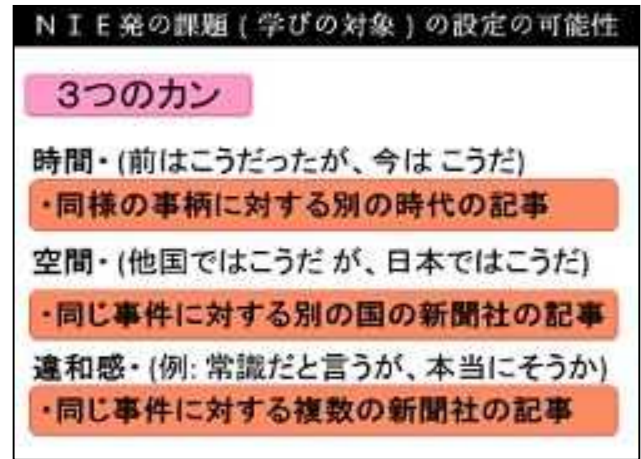


NIEが育成する資質・能力

- ① 「なぜ？どうして？」という問題発見力、「どうしたらよいのか」を追究する探究力
- ② 新聞づくりは、情報収集に基づいた「思考・判断・表現」活動そのもの
- ③ 投書や取材を通して社会とのつながりを実感する
など

探究的な学習における位置付け

- ① 学習課題を作る過程でも
- ② 情報収集でも
- ③ 情報を整理分析する場合にも
- ④ まとめる学習の段階でも



1時間の学習過程での位置付け

- ① 問題意識を高める記事
- ② 解決を追求する解決するための記事
- ③ 学んだことを確認する記事
- ④ まとめ・振り返りのための新聞づくり

先生方がいかに子どもの疑問や問題意識を触発するかが鍵になります。
3つの「カン」を手がかりにして考える手もあります。子どもがギャップに気づき、疑問や問題意識がわいてきたらそこを課題とすることもできます。

もくじ

○ 巻頭言

1	南 浜	小学校	・ ・ ・ ・ ・	1
2	東中野山	小学校	・ ・ ・ ・ ・	2
3	有明台	小学校	・ ・ ・ ・ ・	3
4	亀田東	小学校	・ ・ ・ ・ ・	4
5	矢代田	小学校	・ ・ ・ ・ ・	5
6	庄 瀬	小学校	・ ・ ・ ・ ・	7
7	立 仏	小学校	・ ・ ・ ・ ・	8
8	鎧 郷	小学校	・ ・ ・ ・ ・	10
9	早 通	中学校	・ ・ ・ ・ ・	11
10	東新潟	中学校	・ ・ ・ ・ ・	12
11	新潟柳都	中学校	・ ・ ・ ・ ・	13
12	横 越	中学校	・ ・ ・ ・ ・	14
13	白根北	中学校	・ ・ ・ ・ ・	15
14	小 針	中学校	・ ・ ・ ・ ・	16
15	中之口	中学校	・ ・ ・ ・ ・	17
16	西 特別支援学校		・ ・ ・ ・ ・	18

< 巻頭言 >

N I E が育む力

新潟市教育委員会学校支援課
課 長 三 條 貴 之

新潟市新聞活用教育（N I E）推進事業は、新潟の未来を担う子どもたちが、新聞を活用することで活字に慣れ親しみ、思考力・判断力・表現力やメディアと情報のリテラシー等を高め、確かな学力を身に付けることを目指しています。

平成 2 5 年度から行っている本事業ですが、令和 5 年度は、市内各区の小学校、中学校、特別支援学校、中等教育学校、高等学校の中から計 1 6 校を推進校に指定し、新潟県 N I E 推進協議会の協力を得て、新聞の複数紙配備を行いました。

現行の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」による「資質・能力」の育成が求められています。そのためには、言語能力や情報活用能力の育成が欠かせません。全教科の指導方針を示す総則にも、情報を活用する力を高めるために新聞を含む多様な資料を生かす方針が盛り込まれています。

新聞活用教育は、情報活用能力を高める上でとても重要です。新聞を通じて事実確認や文章解釈のスキルが養われ、幅広い知識が得られます。異なるニュースソースを比較し、信頼性を見極める力も育まれます。また、時事問題に関心を持ち、社会への理解が深まります。これにより、児童生徒は情報を冷静かつ批判的に評価し、主体的に学び、社会への参加意欲が高まることが期待できます。

この実践報告集には、令和 5 年度に指定を受けた、1 6 校の実践報告が綴られています。各校においては、これらの取組を参考にし、N I E の推進をお願いします。

新潟市立南浜小学校

南浜小学校長 阿部 勉

新聞活用の様子



「新聞を読もう」の学習では、新聞の一面を見て、新聞の作りや工夫を比較したり探したりしました。

【5年 国語】



「あなたはどうか考える」の学習では、新聞の投書から自分の関心のある題材を選び、それに対する意見文を書きました。

【5年 国語】



新聞コーナーに、記事と関連する図書館の本を展示しました。本から記事に興味をもつ児童も見られ、貸出にもつながりました。



『学力を高める新聞遊び』伊藤充監修(新潟日報社)P30を参考に新聞ジグソーパズルを作成しました。子どもたちは、写真、見出し、本文をヒントにパズルに挑戦していました。

各学年で、発達段階に合わせて、新聞を活用してきました。6年生は総合的な学習の時間に地域の特産物を紹介したり加工したりしている小学校の記事を日報のデータベースから調べ、自分たちの計画を修正したり活動に取り入れたりしました。

また、図書館では、情報の発信基地として子どもたちが新聞を手に取りやすいよう工夫をしてきました。この結果、新聞に親しみ、関心をもつ児童の姿が見られるようになりました。

国語などの表現について活用するだけでなく、児童の興味を喚起したり地域の情報を収集したりするために新聞は有効でした。今後も身近に新聞を手にするのできる環境を整え、様々な学習、活動に活用していきたいと考えています。

新潟市立東中野山小学校

新潟市立東中野山小学校長 山本 政義

1 新聞活用の様子



出前講座の中で、新聞記者の仕事や新聞の読み方を教えていただきました。特に、「記事は逆三角形」ということが印象に残りました。



講座を受けて、国語「日本文化を紹介しよう」では、特に見出しとリード文を意識して、記事を書くことができました。



5年国語「新聞を読もう」で、子ども新聞を提示して読ませ、興味をもった記事についての感想を紹介し合いました。新聞への関心が高まりました。



新聞記事をロイロノートで写真に撮り、朝の会などで紹介しました。廊下に設置した新聞スペースで新聞を手にする児童が増えました。

担当の先生から

- ・ 出前講座では、新聞記者の方の工夫や努力を知ったり、新聞の構成の意図や意味を学んだりすることができました。キャリア教育としてもよかったです。
- ・ ただ新聞を置いておくだけでは、限られた児童しか手に取りません。教師による新聞記事のちょっとした手間をかけた紹介や、新聞を取り入れた学習を今後も続けていきます。

新潟市立有明台小学校

有明台小学校長 白澤 陽子

新聞活用の様子

全校児童が新聞に慣れ親しみ、興味のある事柄や必要な情報を読み取れるように新聞を自由に閲覧できる環境を整えました。

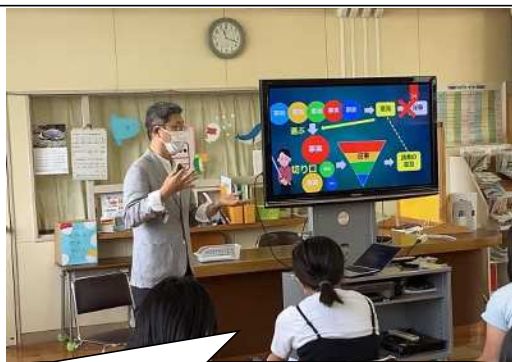


実際の新聞を使って構成を確かめ、総合で学んだことを新聞にまとめました。

【4年 国語・総合】



出前授業「新聞の読み方」で学習したことを生かして、社会科見学で学んだことを新聞にまとめました。【5年 国語・社会】



出前授業「新聞の作り方」では、リード文に着目し、新聞記事の組み立ての工夫を学びました。【6年 国語】



図書館や教室前の廊下に新聞を閲覧できるコーナーを設置しました。国語辞典も一緒に置いています。【全校】

担当の先生から

図書館や教室前の廊下に自由に新聞を閲覧できるコーナーを設置した結果、休み時間等に関心をもって読む姿が見られました。また、高学年の国語の学習で、新潟日報の方から出前授業をしていただきました。記事の組み立てや新聞の読み比べを通して、「新聞記事はリード文で結論を述べる」「新聞記者は自分の意見をもって事実を伝えている」等、新聞を読んだり、新聞作りをしたりする際の新しい視点を得ることができました。来年度は、更に新聞を身近な学習ツールとして活用できるよう、委員会を活用して閲覧コーナーの充実を図ります。

新潟市立亀田東小学校

亀田東小学校長 竹田 暢美

新聞活用の様子

校内研修の中にNIE授業を位置付け、自分の思考を深める子どもを育成するための手立てとして新聞を活用する授業を実践し、協議を重ねてきました。課題解決のため、新聞記事から情報を収集したり、そこから気付いたことを基に友達と話し合ったりする活動を通して理解を深めることができました。



地域の魅力を守るためには、人々の関わりが必要であることを新聞記事から見付け出す。（6年総合）



授業の終末に勇気をもって行動した人の新聞記事を紹介し、道徳的価値の理解を深める。（4年道徳）



新聞やテレビなどを情報源としたり複数の情報を集めたりする大切さに気付く。（5年社会）



戦争中の暮らしについて体験者の証言の新聞記事を読み、物心両面から理解を深める。（6年社会）

担当の先生から

あまり新聞に触れる機会のない子どもたちにとって、授業で新聞記事を取り上げることで、情報収集する手段の一つとして新聞があることに気付かせることができました。しかし、ピンポイントで情報が収集できるインターネットと比べ、子どもたちが自ら新聞を用いることはとても難しいです。図書館と連携して情報収集の一つとして、児童が新聞を選択できる取組を継続していきたいと思います。

新潟市立矢代田小学校

矢代田小学校長 鷲尾 健仁

新聞活用の様子

図書館前の「新聞コーナー」を活用し、新聞に慣れ親しんだり、掲示してある友達のお薦め記事を読んだりしました。授業でも積極的に新聞を活用しました。



図書館前に新聞コーナーを設置しお薦めの記事を紹介することで児童の関心を高めました。

出前講習会で新聞の構成や新聞の読み方、記者の仕事などについてお聞きしました。



5年生の国語「新聞を読もう」で全国紙と地方紙の違いを考えました。全職員が参観し、新聞活用について研鑽を重ねました。

担当の先生から

新聞と触れる環境を生かして、新聞を読むことや活用することの楽しさを味わい、身近な情報活用ツールとして再認識していました。今後も職員や委員会の児童の働きかけが必要ですが、新聞を楽しく読み、生活を豊かにできるよう活用していきます。



高学年を中心に「小学生夏休み新聞スクラップコンテスト」に応募し、学校賞をいただきました。

新潟市立庄瀬小学校

新潟市立庄瀬小学校長 平出 靖

新聞活用の様子

新聞は児童にとって親しみのあるものであり、情報収集の手段として学習や生活に活用できることを目指して取組を進めてきました。以下、新聞活用の取組の様子を紹介します。



第3学年 国語「引用するとき」

朝日小学生新聞の記事の中から気になった記事を選び、必要な部分を引用してワークシートにまとめました。



児童の振り返り

朝日小学生新聞に、「SDGsって何？動画で学ぶSDGsやクイズで学ぶSDGsを分かりやすく説明しています。」と書いてありました。気になったので、環境に優しい行動について更に詳しく調べました。新聞を読んで、調べ学習の課題を決めることができました。



第4学年 国語「新聞を作ろう」

複数の新聞を読み比べ、似ているところ・違うところをマーカーで色分けして印を付けました。

新聞の構成を確かめ、学んだことを新聞作りに生かしました。



児童の振り返り

同じ内容の記事でも、扱いの大きさが違うため、読み手への伝わり方も変わることが分かりました。また、新聞をたくさん読んでもらえるように写真を大きくしたり、色づかいを変えたりするなどの工夫がしてあることに気付きました。

担当の先生から

学校図書館に、図書館司書を中心に、新聞を自由に読める環境を整え、児童が新聞を身近なものとして日常的に触れることで、児童の関心を広げ、より親しむことができるようになりました。児童は授業時間だけでなく休み時間にも興味をもって新聞を読んでいます。今後も、児童の発達段階に応じた新聞を活用する授業づくりを探っていきたいと思います。

令和5年度 新潟市新聞活用教育（NIE）推進事業実施報告書

新潟市立立仏小学校

立仏小学校長 滝澤 豊

1 新聞活用の様子



1年 国語 自動車くらべ

学習後、「しごと」と「つくり」を載せた自動車新聞を作りました。どの「つくり」を書くかについて、近くの人と相談したことで、見る人のことを考えた新聞づくりを行うことができました。



2年 国語 カタカナで書くことば

こども新聞の記事を写真に撮り、タブレットに送信しました。同じ新聞記事から、カタカナを探す活動に楽しく取り組みました。国の名前や生き物の名前、鳴き声等カタカナで書く言葉を見付けました。



3年 特別活動 わたしの目標新聞

初めての新聞作品として、はがきサイズの大きさに「わたしの目標新聞」を作成しました。新聞の要素（題字、奥付、見出し、記事）があり、5W1Hを意識した簡素な文書を書くことができました。



4年 国語 新聞を作ろう

子どもたちは、新聞記者になれることを楽しみにして、活動していました。学校職員にインタビューしたり、アンケートを取ってグラフ化したり、表現方法を工夫していました。



5年 国語 新聞を読もう

地方紙と全国紙の二つの新聞記事を比較し、特徴を理解しました。自分の興味のある記事を見つけ、タブレットのシンキングツール（Yチャート）を使い、記事の要約、感想をまとめました。

イベント司会者の方たちは、イベントの後などに参加者から感謝の言葉をもらうことをやりに、働いている事がわかりました。これから、私もたくさん仕事のやりがいを知って、自分に合う仕事を見つけていきたいです。



6年 総合 夢にむかって

新潟日報「まいにちふむふむ」の「お仕事図鑑」朝日新聞の「朝日小学生新聞」の「お仕事ガイド」を読んで、それぞれの職業に就いている人の「きっかけ」「やりがい」「苦労」等を感じ、「人のために」という思いを深めることができました。



6年 国語 やまなし～イーハトーヴの夢～

イーハトーヴの夢の学習と並行して、新潟日報「まいにちふむふむ」の「イーハトーヴのらくがき帳」を読んで、宮沢賢治の作品に込めた思いをさらに深めることができました。



図書室前 新聞コーナー・NIE コーナー

新聞コーナーは、司書が毎日張り替えています。NIE コーナーは、各学年が輪番で担当しました。子どもたちに読んでほしい新聞を掲示したり、各学年で作成した新聞などを掲示したりしました。

2 担当の先生から

全学年で新聞を活用した実践を行いました。実際に新聞に触れることで、見出し、リード文、5W1Hなど新聞の構成の良さを学ぶことができました。また、新聞記事を写真に撮って、タブレットを活用してロイロノートで送信することで、家庭学習でも新聞を読む子どもが増えました。新聞コーナーやNIEコーナーの掲示板もよく見ている姿がたくさん見られました。

新潟市立鎧郷小学校

鎧郷小学校長 坂井 純

新聞活用の様子

「まずは新聞のページをめくること」をねらい、児童向けの新聞を各クラスに配付したり、新聞を使った学習を行ったりしました。



1年生の授業「カタカナ探し」



各教室で好きな時に読める環境づくり



地方紙と全国紙の比較



知っている漢字を見つけて辞典づくり

担当の先生から

新聞を授業の教材として取り上げると、児童の興味が高まり、意欲的に学習することができていました。また、教室に配付することで、記事を話題に友達と話す環境ができたことも成果だと思います。しかし、意図的に取り上げないと新聞をめくろうとしない児童も多く、新聞を生活にどのように組み込むかがこれからの課題だと感じました。

新潟市立早通中学校

早通中学校長 遠藤 禎

早通中学校は今年度創立40周年を迎えました。この記念すべき節目に在学している生徒たちに、これから先の地域や早通中学校がどのようになってほしいか考えてもらいたいと思いました。そこで、早通中学校が創立した40年前から現在に至るまでの出来事を新聞記事を読むことで振り返り、未来の地域と早通中学校への願いを話し合い、まとめる活動を行いました。その後、完成したものを40周年記念式典にあわせて広報委員会に掲示してもらいました。



朝活動の時間を使って、新聞記事を読んでいます。



40年間の社会や早通の変化について、気づいたことをまとめています。



未来の早通中学校がどのようになってほしいか話し合っています。



広報委員会の生徒が、各学級の成果をまとめて掲示してくれました。

<活動の成果と課題>

○成果

- ・地域や学校の資源（人・もの・こと）のこれまでの変化や変わらない思いに触れ、現在を生きる自分たちにできることは何か考えるきっかけとなりました。

△課題

- ・新聞記事だけでは、情報として足りなかったため、過去の生徒会誌を併用しました。新聞記事だけで活動を展開するのは困難な面がありました。

令和5年度 新潟市新聞活用教育(NIE)推進事業報告書

新潟市立東新潟中学校

新潟市立東新潟中学校長 渡邊 昌彦

新聞活用の様子

- ① 使わせていただいた新聞の部数は180部でした。(新潟日報、朝日新聞、毎日新聞の3社を2か月間)30人学級全5クラスに対して、それぞれ36部ずつ新聞を配布して、各自のテーマに合わせて記事を読み進めることができました。
- ② 生徒は「誰もが安心して暮らせる魅力ある新潟市の実現」という課題解決テーマのもと、各自が追究する内容を次の8つのカテゴリーの中から選択しました。(LGBTQの方々、外国籍の方々、障がいを持たれているの方々、お年寄り、伝統文化の継承、地域活性化に向けたイベント、地震に備えて、子育てしやすい環境)
- ③ 生徒はインターネット検索、ゲストを招いての交流会を通して、自分が追究している課題の概要を把握することができました。課題解決に向けた各自の提案内容を決めるにあたっては、様々な視点から書かれている新聞記事を読み進める中で自分の考えを構築していきました。



【ゲストを招いての交流会】

・困ったこと

自分の予想:大きい公共施設では、外国語での看板があるが、小さいお店や身の回りのお店にはない言語(漢字)

何が迷惑、失礼がわからない

をしないようにしないといけない

ゴミ箱が少ない(中国は食べ歩き文化があるから街にたくさんある)

電車の乗り換えが難しい(種類が多すぎる) 明確に記してほしい!!

バスが韓国とは違う→前で乗り、後ろで降りる お釣りが出る

物件を借りること

生活面 排水溝掃除など→文化が違う

WiFiが必要(地図などはスマホで)



【記事を読み進めている様子】

【外国籍の方々との交流会後に生徒がまとめた内容】



【1人の生徒が記事を読んで提案内容をまとめる思考の変遷】

<生徒の思考の変遷>

- ①日本に来る外国人観光客最多数を更新した。
- ②日本に暮らす外国籍の方が増えるが、在留資格のない外国人は約200。日本で生まれている外国人の子供も、在留資格をもたないことが多い。
- ③外国籍で日本に暮らしている子供で、日本語がわからず学校の授業についていけない人がいる(子供の教育を充実させる方策が提案内容)

担当の先生から

○新聞記事は1つのテーマについて様々な視点で書かれているため、生徒の探究活動にとってとても有効な学習教材となり得ることがわかりました。

○今後も「総合的な学習の時間」において、新聞を活用しながら生徒の探究心を育てていこうと思います。

新潟市立新潟柳都中学校

新潟柳都中学校長 阿部 修

新聞活用の様子

当校では主に授業や委員会活動で新聞を毎日活用しています。また、国語、社会、道徳などの授業において、授業の構想の中に新聞の活用場面を取り入れて実践しています。新聞を活用した学びの場面では、生徒が記事をもとに真剣に考えたり、話し合ったりする活動が促進されています。



1年生道徳、人権についての授業です。拉致問題を題材として、新聞記事を導入教材に使用しています。



文化発信委員会の日常活動として、その日の新聞の中で委員が気になった記事をスクラップし、「今日の一記事」と題して生徒玄関わきの掲示板に掲示しています。記事は毎日更新されています。



3年生社会、地方自治の授業です。巻原発の住民投票についての動画を視聴した後、刈羽原発再稼働について「住民投票をするべき」という意見が掲載されている記事を見て検討に入る場面です。

担当の先生から

新聞を活用することによって、情報の質と量が担保され、主体的な学びにつながりました。立場の異なる記事を複数活用し、協働的に追究していく場面にも活用していきたいです。新聞を身近に感じてもらうための「今日の一記事」を継続していきます。

新潟市立横越中学校

横越中学校長 倉澤 秀典

新聞活用の様子



1 学年では、道徳の授業で三つの新聞記事を見比べ、それぞれに共通する「よりよく生きること」は何かについて考えました。難しいテーマにもかかわらず、生徒たちの主体的に自身の考えを他者に伝えようとしている姿が見られました。



2 学年では、理科の授業で豪雨災害を例に導入に新聞を使いました。村上の災害からなぜ村上地域に大雨が降ったのかを考えさせ、前線の学習に全員が目的をもって入ることができました。



3 学年では、道徳の時間に「優先席は必要か」について考えました。優先席についての考えや経験談について書かれた複数の記事を読み、他者と意見交流する中で、自分の考えを見つめ直したり、より確立したりする姿が見られました。



新聞スペースの開設

廊下と図書室に3社の新聞を自由に閲覧できる場所を作りました。「新聞社によって全然内容が違う」、「情報を比較することが大切だ」と話す生徒がたくさんいました。

担当の先生から

- ・新潟日報の記事データベースサービスから、PDFで新聞をダウンロードし、ロイロノートで配布することで、同じ記事を全生徒で閲覧することができました。
- ・図書室や廊下のスペースでの新聞スペースで生徒がいつでも新聞を読める環境の整備を続けていきます。

新潟市立白根北中学校

白根北中学校長 小山 利幸

新聞活用の様子

情報活用能力を育成するために、日常的に新聞に触れる機会を設けました。国語の教科書教材「報道文を比較して読もう」の単元で、実際に社説を比較して読み比べ、身近な問題について自分の意見を述べる活動をしました。



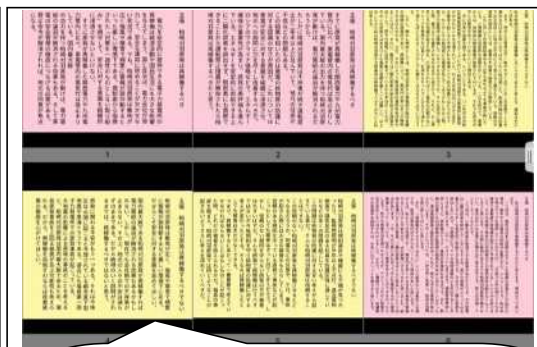
廊下に新聞スペースを設置しました。毎日、新聞を入れ換えます。生徒は興味のある記事を読んでいます。



新潟日報データベースでダウンロードした記事をロイロノートに取り込んで活用しました。欲しい記事を時間軸で追いかけて探せるので便利です。授業ではモニターで確認しながら内容を説明しました。



タブレットに2社の社説のデータを送り、比較読みをしました。見出しやそれぞれの主張を整理し、まとめました。タブレットだと拡大してみられるし、書き込んだり線を引いたりするのにとても便利です。



最後に自分の立場を決めて、2社の社説を根拠に意見文を書きました。立場によって色分けすると、見てすぐ分かるので便利です。両方の意見を見比べて、改めて自分の考えを推敲しました。

担当の先生から

教科書教材の説明文はどうしても生徒から遠い立場にあり、興味をもたせることが難しいです。また、意見文を書かせても、どこか他人事になりがちで身近な問題として考えることに課題がありました。今回、柏崎刈羽原発の再稼働についての社説を読み比べ、電力供給の課題と県民感情の不安というそれぞれの社説の内容から、自分たちの住んでいる地域の問題や実際に自分の立場に置き換えて考えることができました。

課題としては2社の社説の読み比べのため、共通の話題でそれぞれの立場の違いを明確にしている記事を探して教材にする必要があります。よりよい教材開発をするためには複数のデジタルデータベースを見ることができる環境をどの学校も整えられるようになることが望ましいと思います。

新潟市立小針中学校

小針中学校長 逸見 東子

新聞活用の様子

新聞を購読する家庭が減っている中、最新のニュース、政治経済、新潟県内の出来事について紙面を通して幅広く俯瞰して見られるメリットを生かし、期間限定の全クラスへの新聞配付と授業での有効活用を実施しました。



3年生の社会科の公民的分野の株式会社のしくみの授業では、週をまたいだ県内企業の株価の推移を新聞の掲載データとタブレット端末の企業情報とを組み合わせ、学習に活用しました。実際に投資と投機を模擬体験し、利ざやの有無や差額を計算してみました。

1年生の社会科の歴史的分野の課題学習では、実際の新聞を参考に、歴史人物新聞を作成しました。完成後は授業で掲示し、見やすいレイアウトや記事に注目させる工夫をしている新聞はどれか、互いに見合っ、楽しみながらの紙面発表になりました。

担当の先生から

【成果】一定期間の全クラスへの朝の新聞配付は、予想以上に休み時間を中心にして仲間どうしで新聞を開き、記載されている記事についての会話をする生徒が多く、身近なニュースに触れて世の中への関心を高めるよい機会になりました。

【課題】タブレット端末を持ち、ピンポイントで検索して調べられるのに慣れた生徒たちに、新聞の持つよさを体験させ、多様な情報収集や活用方法も促したいと思いました。また、授業での新聞活用が一部の教科（社会科の公民的分野、家庭科の環境問題と食生活の単元など）に偏る傾向があり、私たち教師が新聞の記載内容を知り、各教科の単元構成の中に新聞の記事の活用場面を意図的に設定するなどの見直しが必要だと考えます。

新潟市立中之口中学校

新聞活用の様子

中之口中学校長 武田 正昭

国語：『説得力のある構成を考えよう～スピーチで社会に思いを届ける～』をテーマに聞き手に訴えるスピーチを行うための文章を書く授業を行いました。話題を新聞記事から探し、どの点をどのように説明するかをワークシートに記入しながら、構成を検討し、スピーチ原稿を完成させ、発表しました。最後は振り返りシートで互いの良さを確かめ合いました。

新聞名	年月日	大見出し	小見出し	内容
新潟日報	令和五年 6月 16日()	自然の恵みは無駄な	鳥獣害対策として食料	2017年に十日町市の山間部には雪国Bというお店があり、その代表高橋さんが一人で動物の餌付けから販売までを担っている。その背景の一つは、インシヤシカによる農作物被害の増加や、インシヤシカは狩猟など、個体数も抑制しており、削減された動物も地球環境として活用している。

選んだ新聞記事(裏面に新聞記事を貼って提出)

感動した	こんなおかし	なんとかし	その他
			和1はし ビエの需要がなせ上 がていものか 地球の今について

① 話題を決める。
(1) 話題を見つける。
・社会で起きている出来事や問題の中で、自分の心がさぶられ、多くの人に伝えたいと思ったことを選ぶ
(新聞記事の中から話題を見つける)

② 記事に対する自分の関心点を浮き彫りにして、(2) 新聞記事の説明、(3) 伝えたい目的を明確にする。

説得力のある構成を考えよう (P52～55)
スピーチで社会に思いを届ける。



記事を選ぶときは真剣そのもの。
「この記事いいんじゃない？」

緊張しながら発表。最初は恥ずかしがっていても、徐々に気持ちが入って堂々とスピーチを終えました。



担当の先生から

『説得力のあるスピーチ』とは、何をどのように伝えれば良いのか、当初戸惑っている生徒が多かったが、新聞記事を丁寧に読み込んでいくうちに、紙面で使われる適当な表現や言葉を用いて文をまとめてみたり、他紙やネットでさらに記事の内容を深く掘り下げたりする生徒も出てきた。また、ネットや口語とは異なる新聞の表現力に刺激を受けて、素晴らしいスピーチをする生徒もいた。これをきっかけに、スピーチ力向上は勿論のこと、新聞をもっと身近に活用し、図書館利用や活字に触れる機会を積極的に増やし、日常の会話に新聞記事が話題に上るようになってもらえたらいい。

(文責 NIE担当 西村)

新潟市立西特別支援学校

西特別支援学校長 関原 一成

新聞活用の様子

まず、既存のメディアでは理解が難しい人のための、視覚的な情報を中心にしたDropNewsの配信を申込み、下校時に玄関ホールで上映しました。次に、モニター付近に関連する新聞記事を掲示したりホールに新聞を設置したりし、段階的に社会や身の回りで起きていることに興味をもてるようにしました。



下校時のDropNews上映は、西特別支援学校の日常の風景になりました。



児童生徒が、スライドの内容を読み上げ、音声付きで上映しました。



9、10月は新聞コーナーを設置し、新聞により関心をもてるようにしました。



以前から新聞に関心があった生徒も、新聞記事の内容を通して、自発的に教師とやり取りするようになりました。

担当の先生から

新聞は社会をのぞく「窓」です。今回の実践を通して、当校の児童生徒は新聞やDropNewsから社会や身の回りの出来事に興味・関心をもつ様子が伺えました。

このように児童生徒が社会の知識を共有し、自分の生活をよりよいものにすることが、今後求められます。例えば、天気予報から傘を用意して登校したり交通情報から帰宅が遅れることを保護者に連絡したりする姿などです。

今後も児童生徒の分かりやすさを大切にしながら、DropNewsの上映を継続することで、新聞や社会への関心を育んでいきます。